

# 子ども植物園に は～～るよ来い!

2022. 2. 7  
島田 祥生

日中の最高気温が10℃以下の、今年最も寒い日に、好天に誘われて、横浜市子ども植物園に春を探しに行ってきました。まだ冬枯れ・・・、の中に春が。



子ども植物園の正門を入ると  
うっそうとした木立が出迎えてくれる。

横浜市子ども植物園は、植物遺伝学者である木原均博士の研究所跡地を活用して整備されたものです。

木原博士は、ゲノム研究の先駆者として、文化勲章を受章されています。



門を入れてすぐ左手の自然観察林の中の道

植物遺伝学者  
**木原 均**  
Hitoshi Kihara  
(1891-1966)

*The History of the Earth  
is recorded in the Layers of its Crust.  
The History of all Organisms  
is inscribed in the Chromosomes.*

地球の歴史は地層に  
生物の歴史は染色体に記されている





木原 均 博士は、  
世界で初めてゲノムの概念を定義し、  
ゲノム分析によって  
栽培コムギの祖先種を明らかにした。

- 1893 明治26年、東京に生まれる
- 1918 北海道大学卒業
- 1927 京都大学教授
- 1942 木原生物学研究所 京都に創設
- 1943 帝國学士院感賞
- 1946 文化勲章
- 1955 木原生物学研究所 横浜に移転  
国立遺伝学研究所長
- 1964 木原生物学研究所 横浜市立大学へ移転
- 1966 昭和41年、横浜にて逝去(52歳)

## 遺伝学・進化学から博物学の世界へ 研究の木原 均

高等植物の遺伝学・進化学の分野で数々の業績を残した。倍數性植物の染色体行動に関する研究で、世界に先駆けて「ゲノム説」を確立。ゲノムを「生物が個々の生活機能を営むための最小限の染色体組の単位」と定義することで、21世紀の生命科学の基礎を築いた。また、ゲノム分析法による栽培コムギの祖先種の解明、スイバによる高等植物の性染色体の発見、三倍性を利用した種子なしスイカの作出で世に知られ、研究は広く博物学的領域に及んだ。

栽培コムギのいろいろ



- 1918 五倍コムギ雑種の研究
- 1923 スイバによる性染色体の発見
- 1931 ゲノム説を確立
- 1936 倍數性植物の利用に関する研究
- 1944 コムギの祖先種を発見
- 1946 パンコムギの合成
- 1947 種子なしスイカの研究
- 1949 根癌療法を確立
- 1950 コムギの左右性の研究
- 1967 細胞前線性不穏と雑種コムギの育種
- 1971 宿根の雑生(ヤマボウシなど)の研究  
自然界における左右性の研究
- 1978 根癌胞菌雑種の研究  
身近な「小さい実験」の普及活動
- 1983 ダルマコムギの研究

祖先種を種タリコムギと雑合体

## 木々の芽はまだ硬い。でも、春はもうそこまで来ています

今回は、かつて愛用していた、マクロ（接写）機能の付いたズームレンズを、最近手に入れたカメラに付けて撮ってみました。懐かしい感触が蘇りました。



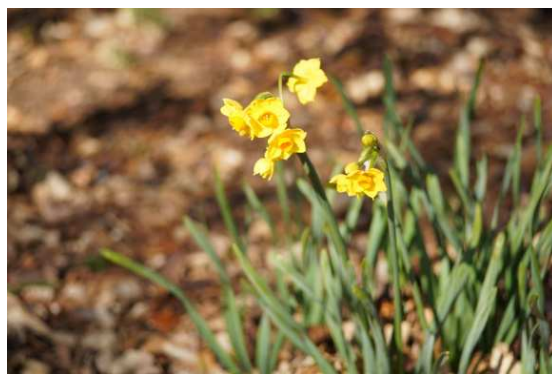
トサミズキ（左:3月～）とリキュウバイ（4月～）  
ウバイ（烏梅）と言う早咲きの紅梅が、林の中で春が来るよと告げている



セツブンソウ  
去年は来るのが遅かった、今年は見れたと嬉しそう



フクジュソウが、落ち葉を掻きわけて周りにいくつかの群があり、華やか



小ぶりの水仙は、昨年暮れから咲いていたらしい。揃って長い名前がついていた。左は、ナルキッスス パピラケウス



## 南斜面にある果樹園の道端は、“春”がいっぱい！

ミツバチが、花粉の大きな団子を足に付けて  
忙しく飛び回っていた



## 沈丁花も Stand By !



紅白の沈丁花が、つぼみを膨らませている。あの匂いがかげるのも、もうすぐ



## ばら園は剪定がすんだ



ばら園の向こうに、展示研修館の研修室の大きな窓が見える。そこで毎年、「エジソンの竹電球」の実験講座を請けている。有名な京都の石清水八幡宮の、エジソンの電球に使われた真竹。その根分けしたものが移植され育てられている。それに因んでの講座で、10組の親子が参加。昨年は240組の応募があった。



# 「ロゼット」を探そう

道端にへばりつくように波を広げている植物は何と言う名前？どんな花が咲くの？

展示研修館で、園内で見つけた「ロゼット」を写真展示していた。

さあ、散歩の折など、ロゼッタを探して、「同定」してみませんか。

「樹皮」「冬芽」「野生のロゼット」、などのハンドブック（文一総合出版）を手にするのも楽しいかもしれませんね。

文一総合出版は、ハンドブックシリーズが充実。

「身近な雑草の芽生え」ハンドブック、などと言う本もありました。

## 草本植物の冬

### ～ロゼット～

草本植物のなかには、冬の厳しい寒さに耐えるために、地に伏して太陽光を無駄なく受けるために葉を放射状に伸ばす種類があります。植物のこのような姿を「ロゼット」といいます。茎を立ち上げず、地際にロゼット (Rosette) の語源であるバラの花のように広がった根生葉のようすから、こう呼ばれます。

冬だけでなく！年をとおしてロゼット状の種類もあり、オオバコやタンポポはその代表です。

ロゼットは道ばたや街路樹の根元など身近でたくさん見ることが出来ます。さまざまなロゼットを冬の野外でぜひ観察してみましょう。



ウラジロチチコグサ (キク科)



メマツヨイグサ (アカバナ科)



コマツヨイグサ (アカバナ科)



スイバ (タデ科)



オオアレチノギク (キク科)



オニノゲシ (キク科)



ハルジオン (キク科)



ビロードモウズイカ (ゴマノハグサ科)



タンポポの仲類 (キク科)